方言集『たつのくち 村ことば百景』について
―「全国方言基礎語彙調査項目」を用いた分類の試み―

村中淑子
桃山学院大学
tmuranaka@andrew.ac.jp

A Study of the Glossary of Tatsunokuchi Dialect in Ishikawa Prefecture: Classification adopting the Basic Vocabulary of Japanese Dialects

MURANAKA Toshiko
St. Andrew's University

Key Words: language change, individual differences, expressing emotion or evaluation to person

0　はじめに

本論文の目的は２つある.

１つは, 石川県 旧能美郡辰口町で作られた方言集『たつのくち 村ことば百景』（辰口町ふるさと研究会編 2003）がどのような性質をもつ方言集であるのかを明らかにすることである. 収録語彙を意味分野で分け, その偏りを見ることにより, この方言集の性質について考察する.

もう１つは, 「知っている方言」と「使う方言」の関係を探ることである. 上記方言集『たつのくち 村ことば百景』の収録語彙に関して一人の話者に使用状況調査をおこない, 「知っているけれども使わない方言」について検討する.

１　『たつのくち 村ことば百景』はどのような性質を持つ方言集なのか

1.1　『たつのくち 村ことば百景』の成立と内容

『たつのくち 村ことば百景』（以下, 『村ことば』）は「たつのくち町ふるさと研究会」編集・発行, 2003 年７月５日初版発刊. 本稿筆者が入手したものは 2004 年４月１日第３版. 非売品で, 石川県内の図書館に納められたり, 公民館等で配布されたりしたようだ. タイトルの「たつのくち」とは, 石川県旧能美郡辰口町のことである[1]. 旧辰口町は金沢市の南西約 15 ㎞にあり, 面積 56.15 ㎢, 人口は 1956 年に 8965 人, 1980 年国勢調査で 10009 人, 2000 年 10 月 1 日現在 14343 人. 35 の集落のうち 28 が平坦地に, ７が山間地にある. 夏は暑く冬は雪が多い. 昔は農村だったが近年は工業が発展している.

以下，『村ことば』の「発刊にあたって」「まえがき」「あとがき」をもとに，この方言集の編集経緯について述べる．

辰口町内の７集落（高座，緑ヶ丘，倉重，来丸，金剛寺，宮竹，和佐谷）[2]から集まった９名の編集委員（平均年齢 70 余歳）が５年間かけて取り組んだもので，ふるさとを偲び，子や孫に伝えていくという意図のもとにまとめられた．実際に収集整理したのは三千数百語に及ぶという．「村ことば」[3]として当初対象としたのは約 600 語，そこから 100 語に絞り込まれた．「動作，様態，挨拶，遊びなどの各分野を視野に入れ，世代別や好感度など，色々な視点から検討して百語の言葉を選定し，それぞれの言葉の用例や言葉の持つ世界を表す３つの短文を編集会議で作成」したという．

紙面構成は，たとえば図１のようである．見出し１語につき１ページずつ割り当てられ，１ページ内に見出し（カタカナ表記），語釈（１行以内），例文３つ（全て五七五の川柳のような形式），コラム欄（200 字程度），挿絵，が見やすくレイアウトされている．見出しは 50 音順である．挿絵は３つの例文のうちのどれかの内容に沿ったものであり，コラム欄は語にまつわる随筆的内容である．

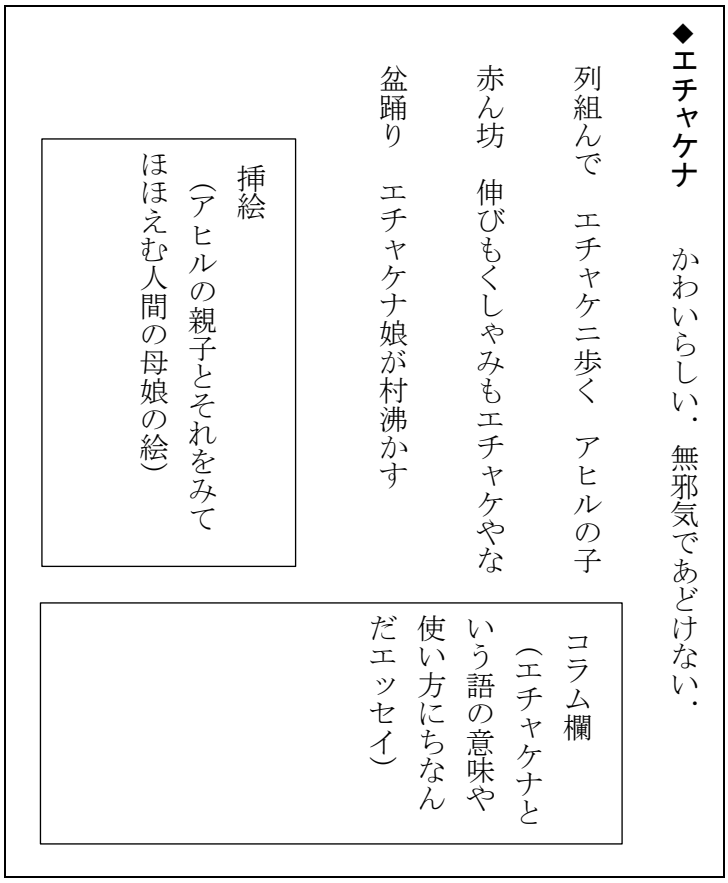

図１　見出し「エチャケナ」のページ（『村ことば』24 ページ）

収録された全100語を列挙すると次のとおりである（掲載順＝50音順）.

アーハヤ, アイソムネ, アオダカス, アオノキテンバ, アカシモン, アクショモン, アセクラシ, アッタラモン, アテゲナ, アテシゴト, アラムサヤ, アンバカイ, イイ, イジクラシ, イッペンコ, イリンガシ, ウタテヤ, ウララ, エチャケナ, エンバナ, オウボウ, オオドナ, オクモジ, オジャミ, オゾクラシ, オンボラート, カテモン, カラキシ, カンカラカン, キザエル, キシクル, クッツリ, グゥチコキ, グゥチャブリ, ケナルイ, コウバクナ, コウビリ, ゴザブシ, コチョバス, コッパイ, ゴモッテニ, サカシナ, ショマダレ, ジョンナ, シンブリ, セイモム, ソコッタシ, ソラアルキ, ダイバラ, ダチャカン, ダンネ, チャッチャト, チャベコキ, チョウワイ, チョンゴ, ツイボ, ツマツマト, ツルツルイッパイ, デカト, テンコモリ, テンデン, テンポナ, ドウラクモン, ドギノ, ドクショナ, ドンドカミ, ナガイコッテ, ナンゾゲナ, ニンガシ, ハイット, ハカイク, ハグチ, ハツメナ, ハナグサ, ハラベッコ, バンブチ, ヒネクラシ, フンジョ, ブンノクビ, ヘグル, ホッコリ, ホッタリコ, ボボタ, ボンボ, ボンボカゼ, マンベン, ミテクレ, ムクッショナ, ムダク, メンデ, ヤクチャンネ, ヤスンギョ, ヤチヤチ, ヨダガリ, ヨッライ, ヨモクロワルイ, ラクスケモン, リクツナ, ワヤク, ワラビシ.

1.2 『村ことば』収録語彙の「全国方言基礎語彙調査項目」による分類

1.2.1 なぜ「全国方言基礎語彙調査項目」を分類に用いるのか

日本各地で数多くの方言集が発行されている. ある方言集の性質がどのようなものか知ろうとする際の中心的課題は, その方言集の収録語彙の性質を知ることであろう. できれば方言横断的な観点から収録語彙の性質がわかることが望ましい. しかし方言集の収録語彙の性質を方言横断的に比較可能な観点から調べた研究はあまりみられないようである.

横断的に比較可能な観点から方言集収録語彙の性質を調べるための基準を提案できれば, 方言集の研究, ひいては方言研究に, 貢献できるであろう.

本稿では, 平山輝男グループ[4)]の「全国方言基礎語彙調査項目」が方言横断的に比較可能な観点として方言集収録語彙の分析に活用できるのではないか, と提案する. 平山輝男グループの「全国方言基礎語彙調査項目」は, 各地方言の基礎語彙の記述とその比較を目的として, 臨地調査で用いるために考案されたものである. つまり, 話者から言葉を引き出す調査のために考えられたものであって, 既成の方言集の性質を調べるために考えられたものではなく, 実際, そのように活用された例は, 管見の限りでは見られない. しかし「日本各地」の方言を調べるために作られていることから, 方言横断的な性質を持つことは明らかである. 方言集の分析に使っても有効に働くことが予測できる. なお, 平山輝男グループの「全国方言基礎語彙調査項目」については, 平山輝男（1978）や平山輝男編（1979）, 久野マリ子（2005）等に詳しい説明がある.

1.2.2　「全国方言基礎語彙調査項目」の 18 分野

平山輝男グループの「全国方言基礎語彙調査項目」は次の 18 分野を設定している.

１天地・気候　２動物　３植物　４人体　５衣　６食　７住　８民俗　９遊戯
10 教育　11 人間関係　12 社会・交通　13 行動・感情　14 時間・空間・数量
15 職業　16 農林漁業　17 勤怠・難易・経済　18 助詞・助動詞・その他

『村ことば』収録 100 語のそれぞれが 18 分野のいずれに所属するかについては末尾の【資料】に示した. 分野所属の判定は, 久野眞・久野マリ子（1985）の説明や, 佐藤茂（1983）・加藤和夫（1999）の調査結果を参考に行った. 佐藤（1983）は旧辰口町で[5], 加藤（1999）は旧辰口町から近い小松市で行われた 18 分野の語彙調査であるため大いに参考になる. 佐藤（1983）と加藤（1999）については, 掲載された分野ごとの方言語形見出しを Excel に入力する作業を行い, 網羅的に検索するようにした.

1.2.3　『村ことば』収録語彙を分類した結果

『村ことば』収録語彙を「全国方言基礎語彙調査項目」の 18 分野に当てはめて分類した結果を集計したものが表１である.

表１　『村ことば』語彙の分類結果

分野	該当する語数
13　行動・感情	24
14　時間・空間・数量	17
12　社会・交通	14
9　遊戯	6
11　人間関係	5
6　食	5
17　勤怠・難易・経済	5
4　人体	4
1　天地・気候	4
5　衣	3
10　教育	3
16　農林漁業	2
7　住	2
2　動物	2
その他（15 職業, 18 助詞・助動詞その他, ８民俗, ３植物）	4
総計	100

一見して，収録語彙の意味分野には偏りがあることがわかる．１番多かった分野は「13 行動・感情」（24/100），２番目は「14 時間・空間・数量」（17/100），３番目は「12 社会・交通」（14/100）であり，この３つの分野で全体の半分以上（55/100）を占めている．すなわち，『村ことば』には，「感情を表したり，人について評価したりすることば」「程度を表したり，その場の様子を描写したりすることば」「人との付き合いに関係することば」が多いのである．

『村ことば』の「まえがき」には「動作，様態，挨拶，遊びなどの各分野を視野に入れ，世代別や好感度など，色々な視点から検討して百語の言葉を選定し」と述べられている．各分野からまんべんなく選ぶという意図があったということであり，特定の分野を多く収録するつもりはなかったであろう．しかし結果としては上記のような偏りがあった．

方言語彙にもともと，分野による数の偏りがあるということも考えられなくはない．しかし，たとえば佐藤（1983）の分野ごとの方言見出しを数えると，次のとおりである[6]．

表２　旧辰口町における 18 分野の方言語形の数（佐藤（1983）より）

分野	方言語形数
14　時間・空間・数量	126
12　社会・交通	110
16　農・林・漁業	106
4　人体	99
13　行動・感情	92
3　植物	83
6　食	79
11　人間関係	76
7　住居	74
5　衣	68
1　天気・気候	65
2　動物	64
15　職業	49
8　民俗	41
9　遊戯	40
10　教育	38
17　勤怠・難易・経済	30
計	1240

表１と表２を比較してみよう．

『村ことば』で断然トップの「13 行動・感情」は，佐藤（1983）でも５番目であり，比較的多い．『村ことば』のトップ３の他の２つ，「14 時間・空間・数量」「12 社会・交通」は佐藤（1983）でもトップ３に入る．しかし，佐藤（1983）で３番目に多い「16 農林漁業」は，『村ことば』では少ない．

表２では 18 分野における方言語形の数をあげた．しかし実は，18 分野のそれぞれで設定されている調査項目の数に偏りがある．そこで，次の表３では分野ごとの項目数に占める方言語形の割合を出し，割合の多い順番を見てみる．

表３　旧辰口町における分野ごとの方言語形の割合（佐藤（1983）より）

分野	方言語形数	分野の項目数	分野項目に占める方言語形の割合(%)
11　人間関係	76	96	79.17
13　行動・感情	92	121	76.03
16　農・林・漁業	106	143	74.13
12　社会・交通	110	149	73.83
15　職業	49	68	72.06
17　勤怠・難易・経済	30	46	65.22
9　遊戯	40	64	62.5
10　教育	38	73	52.05
3　植物	83	165	50.30
4　人体	99	202	49.01
7　住居	74	151	49.01
5　衣	68	141	48.23
14　時間・空間・数量	126	276	45.65
6　食	79	188	42.02
1　天気・気候	65	159	40.88
2　動物	64	160	40
8　民俗	41	117	35.04
計	1240	2319	53.47

（%は小数点第３位を四捨五入）

表３をみると，『村ことば』のトップ３のうち，「13 行動・感情」と「12 社会・交通」は表２と同様，表３でも順位が高く，方言語形の割合は７割を超える．しかし「14

時間・空間・数量」は表２と異なり，順位が低く，項目に占める方言語形の割合は５割に満たないことがわかる．

その一方，「16 農林漁業」は表３においても表２と同様に順位が高く，方言語形が占める割合は７割を超える．つまり農業・林業・漁業に関することばは，数そのものも多いし，方言語形率も高いのに，『村ことば』の項目としてはあまり選ばれなかった，ということである．また，「11 人間関係」と「15 職業」は，表２ではさほど多くなかったが，方言語形の割合では７割を超えた．

以上のことから，「社会での交際や生活態度についての表現（分野 12）」や「感情表現や，好悪や人の評価に関する表現（分野 13）」は，辰口町の方言体系における重要性が『村ことば』における数の多さにも反映していると考えられる．しかし「時空間の区切りかたや状態・程度を表す表現（分野 14）」については，辰口町の方言体系における重要性以上に，『村ことば』において重視されていると言えそうである．また「農林漁業に関することば（分野 16）」や「職業の種類とそれに関することば（分野 15）」がさほど取り上げられていないことも 『村ことば』の特徴だということができるだろう．

さらに言えば，この『村ことば』に収録されている語彙の分野の偏りかたは，方言集一般にも通じる可能性がある．つまり，非専門家のネイティブが郷土愛に基づいてじっくりと作成する方言集には，感情を表す言葉，人を評価する言葉，具体的な描写に用いる言葉，人との交流に関係する言葉，が多く収録される傾向があるのではないかと考えられる．その理由としては，それらの言葉が，話者の感覚を私的な場面で表出するものとしてふだんの生活の中でしばしば使われており，標準語には翻訳しにくいもので，いかにも地元の言葉らしいと感じられ，愛着が湧きやすいからではないだろうか．その一方で，農林漁業や職業に関することばは，方言集づくりの際に見過ごされやすいのかもしれない．

以上，一つの方言集を「全国方言基礎語彙調査項目」の分野を用いて分類し考察した．この方法は，方言集の性質を検討する上で，一定の有効性があると考えられる．

２　『村ことば百景』収録語彙の使用状況調査から

本章の目的は，「知っている方言」と「使う方言」の関係を探ることである．方言集『たつのくち 村ことば百景』の収録語彙に関して一人の話者に使用状況調査をおこない，「知っているけれども使わない方言」について検討する．

2.1　「知っている方言」と「使う方言」の関係とは？

よく知っている表現であり，かつ，自分の出身地域の方言に含まれると認識していても，使わない語彙項目がある．それはなぜなのか．ある語彙を使うか，使わないかという調査はよく行われているが，使わない理由がなんであるかに注目し検討したものは少ないように思われる．

ある方言語彙について，「知ってはいるが使わない」という意識を，多くの話者が共通して持つようになれば，その方言語彙は廃れていくわけである．つまり，「知っている方言」と「使う方言」の関係について考え，「知ってはいるが使わない」理由を明らかにすれば，方言変化の要因解明につながりうるだろう．

現代日本においては，多くの人が，方言と標準語を場面によって使い分けていると言われる．しかし，方言と標準語の棲み分けの要因は，場面だけではないだろう．言語項目ごとに，何らかの理由で方言的要素を使ったり使わなかったり，ということがありうる．言い換えると，ある話者が自分の出身地域の方言語彙を使ったり使わなかったりするのは，その地域方言の語彙全体についてランダムに起きることではなく，語彙の意味分野によって，「使う・使わない」の状況が異なるのではないか．どのような意味分野において，「知ってはいるが使わない」ということが起きやすいのか，ということに注目する．

2.2　調査概要

調査年月日は 2018 年１月２日午後．調査場所は話者の自宅．調査者は村中淑子．

話者に『たつのくち 村ことば百景』を１ページずつ見てもらい，使用状況や思いつく関連事項を内省して，語ってもらった．適宜質問して調査メモを取った．調査の様子は IC レコーダーで録音し，あとで聞き直して，調査時のメモに加筆修正した．

話者の語った内容から，各語を「a 使う」「b 昔使っていた」「c 使わないが聞いたことがある」「d 聞いたことがない」に分類した．考察の際に「全国方言基礎語彙調査項目」による分類を活用した．

2.3　話者について

話者＝調査協力者は 1923 年３月生まれ，調査時 94 歳．男性．元公務員．

０歳から 16 歳まで，石川県 旧能美郡辰口町灯台笹（とだしの）で生まれ育ち，16 歳から 58 歳まで各地を転居，58 歳以降は金沢市内に在住[7]．

移住歴があるが，言語形成期は辰口町の一集落である灯台笹で過ごしているため，辰口町方言話者として考えることにする．ちなみに，父母ともに灯台笹の生まれ育ちで，実家（父母宅，のちには兄宅）はずっと灯台笹にある．

94 歳だが矍鑠としており，体の動きや姿勢，話し方にもさほどの衰えは見られない[8]．なじみの深い語については問わず語りに語ってくれる部分もあり，方言調査の話者として適切であったと考える．

2.4　調査結果

話者の，100 語についてのコメント詳細は，末尾の【資料】に載せた．100 語の分野と話者の使用状況をクロス集計したものが次の表４である．

表４　『村ことば』収録語彙の分野と話者の使用状況

	使う	使った	聞く	知らない	計
13 行動・感情	9	5	6	4	24
14 時間・空間・数量	8	3	3	3	17
12 社会・交通	7	3	3	1	14
9 遊戯	2	0	2	2	6
6 食	4	0	1	0	5
17 勤怠・難易・経済	5	0	0	0	5
11 人間関係	3	1	0	1	5
1 天気・気候	1	2	0	1	4
4 人体	2	0	0	2	4
5 衣	1	2	0	0	3
10 教育	2	0	1	0	3
2 動物	1	0	0	1	2
16 農林漁業	1	0	0	1	2
7 住居	1	1	0	0	2
8 民俗	0	1	0	0	1
3 植物	1	0	0	0	1
15 職業	1	0	0	0	1
18 助詞・助動詞その他	1	0	0	0	1
計	50	18	16	16	100

100 項目のうち，「使う」は 50，「昔使っていた」は 18，「自分は使わないが同じ集落出身者が使うのを聞いたことがある」は 16，「聞いたことがない」は 16，という結果が得られた．ここから「（使った＋聞く）÷（使う＋使った＋聞く）」の割合を出すと 40.5%となる．これが「知っているが現在使わない」割合，とみることができる．

回答数の多かった「13 行動・感情」「14 時間・空間・数量」「12 社会・交通」の３分野の「（使った＋聞く）÷（使う＋使った＋聞く）」の割合を出すと次の通り．

「13 行動・感情」　11/20　（55%）
「14 時間・空間・数量」　6/14　（42.9%）
「12 社会・交通」　6/13　（46.2%）

これを見ると「行動・感情」の数値が 55%と，全体平均の 40.5%に比べてかなり高い．つまり，「行動・感情」分野すなわち「好悪の感情や人の評価に関する表現」は，「知っ

てはいるが使わない」という意識を持つ語の割合が他の分野よりも高い，と言えそうだ．おそらく，「感情や人の評価を表す言葉」は年代差・男女差・個人差について敏感になりやすく，自分の感覚にぴったりくるものは愛着を持って使い続けるが，少しでもズレを感じるものについては，使わない．そのような敏感さを持ちやすい分野なのではないか．例えるなら衣服のようなもので，自分のフィーリングに合うかどうかがかなり重要であり，使えそうならとりあえず使っておく，というような存在ではない，のかもしれない．

３　その他の考察

『村ことば』の記述内容と本稿調査の話者コメントとの間にズレのある場合があった．

まず，語の意味のズレについて．

エチャケナについては，『村ことば』の例文に「エチャケナ娘が村沸かす」とあるが，本稿話者は幼いものに使うことばなので「娘」を形容するのは違和感があるとのこと．

オードナは，『村ことば』にある語釈のうち，「贅沢な」の意味では使うが「横着な」の意味で使うことはないという．

チョーワイは，『村ことば』では，婿を連れて娘が里帰りする場合も含むようだが，本稿話者によると，小さい子供を連れた母親が里帰りすることだったらしい．

アカシモンは，『村ことば』では「なぞなぞ」だが，本稿話者は「無くしものを見つける」あるいは「隠したものを見つける」ことであるという．謎（わからなかったこと）を明かすこと，という広い意味においては共通しているが，謎の範囲が異なる．

オクモジは，『村ことば』のコラム欄によると，茎漬けの女房ことばである「く文字」から来ているようなのだが，話者によると「大根の葉」を塩漬けにしたものであるとのこと．また，コラム欄では，美味であって「年配者にはたまらぬもの」と記されているが本稿話者によれば美味しくないものという定評だったという．

以上を見ると，エチャケナ・オードナ・チョーワイ・アカシモンについては，『村ことば』に比べて意味範囲が限定的になっている．オクモジについては，『村ことば』よりも本稿話者の方が派生的な意味である．

次に，文法的形態にズレの見られるものについて．

エチャケナは，『村ことば』ではエチャケニ・エチャケナ・エチャケヤなどの形が示されているが，本稿話者は普通使うのはエチャケナー（感嘆文）であるとのことで，エチャケニ・エチャケヤナには違和感があるという．

ウタテヤについても，本稿話者はウタテヤー（感嘆文）が普通であって，ウタテヤナは使わなくもないが，ウタテナという連体形では言わないという．

他にもセーモムという動詞はセーモンデの形で使うのでセーモムという終止形はピンとこないという．同様に，キシクルという動詞もキシクッテ・キシクッタが普通に使う形でキシクルの形で使うことは考えにくいとのこと．

アテゲナは，連体形はあるが，アテゲという名詞の形はないという．

以上を見ると，文法（活用形）的にも『村ことば』より本稿話者の方が限定的である．

意味的ズレや文法的ズレが起きた要因は，いくつか考えられる．

まず一つめは，『村ことば』が辰口町内の７集落から集まった９名の編集委員が作成したものであり，本稿で調査した話者は辰口町内の１集落の灯台笹出身話者であるため，言葉の地理的範囲が異なるということである．『村ことば』の「あとがき」に「編集委員の生い立ちや生活信条の違いなどから，ときには，一つの「村ことば」の解釈をめぐって白熱したやり取りも行われました．」とある.『村ことば』は辰口町内のことばの地域的バリエーション[9]を含んでおり，意味や形態を広めに示している可能性がある．

他に考えられることとしては，方言集を作ろうとする場合，活用形を規範的に捉える傾向があるのかもしれない，ということである．つまり，方言は通常話し言葉として使っているのだが，方言集を作るためには文字言語化する必要がある．文字言語として方言の説明をする際，学校教育の国文法のように捉えることが適切だと考え，動詞に終止形があるのは当然だと考えるわけである．実際の談話においては，使われる活用形に偏りがあって，本稿話者の内省のように，ある動詞については終止形がピンとこない，というのが実情に合っているのではないか[10]．

４　おわりに

本稿では，方言集『たつのくち 村ことば百景』の収録語彙 100 語を平山輝男グループの「全国方言基礎語彙調査項目」の 18 分野に当てはめて分類し，分野の偏りから，方言集の特徴をみるという試みを行った．その結果，この方言集には「感情を表したり，人について評価したりすることば（分野 13）」「程度を表したり，その場の様子を描写したりすることば（分野 14）」「人との付き合いに関係することば（分野 12）」が多く，農林漁業に関することばや職業に関することばが少ない，ということがわかった．また分野 13 と分野 12 については，この方言集に限らず，辰口町の生活語彙として方言語形の割合が高いようであった．

また，『たつのくち 村ことば百景』の収録語彙に関して一人の話者に使用状況調査をおこない,「感情や人の評価を表す言葉（分野 13）」において「知っているけれども使わない」語の割合が高い，という結果を得た．

今回の調査は話者１名であり，調べた方言集は１冊だけ，語の数は 100 だけであった．いくつかの示唆は得られたが，確実なものとするためには，調査規模を広げていくのが望ましいだろう．「全国方言基礎語彙調査項目」に基づく調査結果の比較などを今後の課題としたい．

［注］

1) 能美郡辰口町は旧地名．2005 年２月１日に石川県能美郡の根上町，寺井町，辰口町の３町が合併して能美市が発足．合併の際，辰口町内の多くの集落が町になったため，辰口の町名は残ったが地理的範囲は狭くなった．本稿で扱う辰口町は旧の辰口町である．

2) この７つの集落は，高座，緑ヶ丘，倉重，来丸，金剛寺，宮竹，和佐谷の順で町内の西の端から東の端へと並んでいる．金剛寺と和佐谷が山間部にあり，緑ヶ丘は新興住宅地，高座，倉重，来丸，宮竹は平坦地で稲作の盛んな地域．編集委員は町内の様々な地域から集まったメンバーであるといえよう．

3) 辰口町は昭和 31（1956）年に町となったが，明治 40 年から昭和 31 年までは久常村・山上村・国府村であり，明治 40 年以前は久常村・山口村・宮内村・国造村・里川村であった．『村ことば』編集者たちは 2003（平成 15）年時点で 70 代ということから，20 代半ばごろまでは「村」に住んでいたことになる．自分たちが生まれ育って身につけた言葉は「村」のことばである，という感覚があるのであろう．

4) ここでいう平山輝男グループとは，平山輝男を中心とした都立大学および国学院大学に関係する方言研究者のことで，大島一郎，久野マリ子，久野眞，平沢洋一，大野眞男，を含む人々を指す．

5) 佐藤（1983）の調査地は，旧辰口町の来丸という集落である．

6) 佐藤（1983）の各分野の調査結果のカタカナ部分を方言見出しとして数えた．なお，佐藤（1983）では「分野 18 助詞・助動詞・その他」の記述が省かれている．

7) 本稿の話者は，村中淑子（2017)の話者 K 氏と同一人物である．移住歴について，村中(2017)の表を下に再掲する．

0-16 歳	16−42	42−46	46−48	48−51	51−56	56−58	58-94
辰口町灯台笹	関西（大阪市，神戸市，豊中市，箕面市，和歌山市等）	名古屋市	金沢市	大阪府吹田市	東京都世田谷区	大分市	金沢市

石川県の南加賀地域のアクセントは一通りではなく，同じ辰口町の中でもアクセントの異なる地域があるが，村中（2017)の調査結果では，話者 K 氏は出身地域である辰口町灯台笹のアクセントの特徴を保持していた（現在住んでいる金沢市内のアクセントの特徴とも異なる）．語法については，旧能美郡を含む南加賀方言の特徴を持っていた．

8) 内科や歯科などの病院に時々通ってはいるが，掃除・洗濯・炊事等の家事，車での買い物，庭仕事，新聞購読，俳句作りに麻雀など，基本的に元気な日常生活を送っている．

9) 辰口町内における言葉の地域差については，加藤（1992）や佐藤（1983）に多くの言語地図で示されている．

10) 村中(2015)では，方言談話で高頻度に出現する活用形（タ形・テ形）から，あまり出現しない終止形の形態についての類推が起きている可能性を指摘している．

［参考文献］

平山輝男，1978，「全国方言基礎語彙辞典の構想」日本方言研究会・柴田武編『日本方言の語彙—親族名称・その他』三省堂：335-369.

平山輝男編，1979，『全国方言基礎語彙の研究序説』明治書院.

加藤和夫，1992，「石川県辰口町方言の動態—十年間の変化と世代差」『金沢大学語学・文学研究』21：1-12.

加藤和夫，1999，「石川県小松市符津町方言の生活語彙」『小松私立博物館研究紀要』35：60-108.

川本栄一郎，1983，「石川県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』国書刊行会：337-362.

久野眞・久野マリ子，1985，「方言語彙の体系的記述」『新しい方言研究』至文堂：81-97.

久野マリ子，2005，『日本方言基礎語彙の研究』おうふう.

守屋以智雄，1983，「第１章 地形と地質」『辰口町史 第１巻自然・民俗・言語編』石川県能美郡辰口町役場：1-39.

村中淑子，2015，「和歌山県北部におけるアスペクト表現「チャウ」について」『現象と秩序』2：191-200.

村中淑子，2017，「南加賀出身のある J ターン移住者の方言維持の様相」『第 105 回日本方言研究会発表原稿集』：25-32.

斎藤晃吉，1982，「序章 緑と水と太陽の町」『辰口町史 第４巻現代編』石川県能美郡辰口町役場：1-18.

佐藤茂，1983，「第７章 辰口町のことば」『辰口町史 第１巻自然・民俗・言語編』石川県能美郡辰口町役場：675-810.

辰口町史編纂専門委員会（代表 斎藤晃吉），1982，『辰口町史 第４巻現代編』石川県能美郡辰口町役場.

辰口町史編纂専門委員会（代表 斎藤晃吉），1983，『辰口町史 第１巻自然・民俗・言語編』石川県能美郡辰口町役場.

辰口町ふるさと研究会編，2003，『たつのくち 村ことば百景』.

［参考サイト］

能美市ホームページ　http://www.city.nomi.ishikawa.jp.

【資料】

『たつのくち 村ことば百景』項目の分野と話者コメント（分野順に並べた）

語形（『村ことば』掲載）	意味（『村ことば』掲載）	分野	話者の使用	話者の使用形態，意味，例文，など
グヮチャブリ	どしゃぶりの雨.	1* 天地・気候	○	ガチャブリの形を使う.
ソラアルキ	冬の晴れた朝，凍った雪の上を歩くこと.	1* 天地・気候	△	昔使っていた．雪の表面がカンカラカンになるとその上を子供が歩くことができる．灯台笹ではソラアルキのできる年とできない年があった.
ボンボカゼ	春先に吹く暖かく乾いた風．（フェーン現象の風）	1* 天地・気候	△	使っていた．南風の生暖かいもの.
ドンドカミ	雷．（音の大きいことから，父親のどなり声をさすこともある）	1*$ 天地・気候	×	雷のことはカンナリと言う.
ホッタリコ	ほたる.	2# 動物	○	可愛らしい表現である.
ボボタ	おたまじゃくし.	2#$ 動物	×	初めて聞く.
ハナグサ	レンゲ草.	3#$ 植物	○	田んぼで肥料にするためにタネをまいて作っていた.
コチョバス	くすぐる．（コチョガシイ＝くすぐったい）	4*$ 人体	○	子供の時に「コチョバスなー」と言いながら追いかけ合ったりした．コチョガシイは使わない.
ハラベッコ	腹ばい.	4 人体	○	使っていた．今でも使う．良い表現である.
アオノキテンバ	あお向けに大の字になってねる.	4 人体	×	「アオノキに寝とる」は言う．アオノキテンバという形は聞いたことがない.

ブンノクビ	（首の後ろのくぼみから出たことばで）運命．巡り合わせ．えり首．	4# 人体	×	ブンノクビではなく，ブンノンスと言っていた．
ゴザブシ・ゴザボウシ	ござ帽子．（藺草を織って作った，頭からすっぽりとかぶる雨具）	5*$ 衣 16$ 農林漁業	○	ゴザブシの形を使う．
ツイボ	杖．	5*$ 衣	△	昔よく使っていた．杖の意味だけでなく，物がひっくり返らないようにつっかい棒にするものもツイボという．「ツイボかけとく」などと言う．
ドギノ	蓑．（ニンゴわらや棕櫚で作った作業の時の雨具）	5$ 衣 16$ 農林漁業	△	昔使っていた．ミノとは言わず，ドギノと言う．藁の芯だけを使って水はけをよくする．それぞれの家で年寄りが作っていた．
イリンガシ	炒り米の菓子．	6 食	○	「お米のポン」よりも昔のもので，家で作るもの．大きなフライパンで作る．
オクモジ	こな（くきたち）などの漬物を塩出しして煮た郷土料理．	6 食	○	大根の葉を塩漬けにした保存食．雪が降る間野菜が採れないので，それを炊いて食べる．あまり美味ではなく，「こんなもんオクモジ食べとるようなもんや」と悪い表現として使う．塩味でくどい味のものだった．
コウビリ	仕事の途中の軽い食．（三食の間にとる．たばこ，小昼ともいう）	6* 食	○	コビリの形を使う．

ツルツルイッパイ	（水など）こぼれるほどいっぱいに.	6 食	○	「お茶，ツルツルイッパイ」などと言う．良い表現である.
テンコモリ	ご飯などを器に山盛りにすること．天こ盛り.	6* 食	▲	聞けばわかる程度．ヤマモリやモリヤマニを使う.
ムダク・ムダカス・ムダケル	ちらかす．（ムダケル＝糸などが乱れからまる）	7#$ 住居（5* 衣）	○	「田んぼの稲刈りしたあとをあとしもせんでムダイテ」「部屋中ムダカイテ，ほったらかしや」などと言う．『村ことば』解説中の「ムタムタにムダク」も使う.
ハイット	入り口．（おもに家や部屋の入り口をさす）	7# 住	△	使っていた．「このうちのハイットはこっちか」
チョウワイ	嫁や婿などの里がえり．（たいていごちそうが出る）	8# 民俗	△	盆過ぎや正月明けに母親が小さい子供と一緒に数日間，里帰りすることをチョーワイと言っていた.
アカシモン	なぞなぞ.	9*$ 遊戯	○	ものがなくなったり，あるいはものを隠しておいて見つける時などに使う.
オジャミ	お手玉．（端切を縫い合わせ小豆などを入れて作る）	9*$ 遊戯	○	『村ことば』の例文にあるパッチ（めんこ）という語も使う.
チョンゴ・チョンゴスル	ものをもてあそぶこと．（チョンゴモン＝おもちゃ）	9$ 遊戯	▲	聞いたことがある.
ドウラクモン	なまけ者．（本業以外の趣味にふける意味もある）	9* 遊戯 13$ 行動・感情	▲	周りの人がよく使う．自分は，多趣味な人という意味の方をよく使う.
アンバカイ	肩車.	9# 遊戯	×	肩車はカタグルマとしか言わない．アンバカイは聞いたことがない．（『村ことば』解

				説に「ハツウマ，カタンマなど，町内でも多様な言い方がある」とある．）
バンブチ	石や俵などを持ち上げて力競べすること.	9 遊戯	×	
アテシゴト	（子どもなどに）割り当てられた仕事.	10 教育	○	『村ことば』解説中のラチウチ（田んぼの稲と稲の間を除草すること．その機械．）も馴染みのものである．学校から帰ってくると田んぼ一枚ぶん，その仕事をあてがわれ，済んだら手取川に鮎釣りに行ってもいい，などと言われたものである.
カテモン	よい子．聞き分けがよくて行儀のよい子.	10 教育	○	子供を褒めたりおだてて使ったりする時に「お前カテモンやー」などという.
ハツメナ	かしこい．利口な.	10* 教育 13* 行動・感情	▲	上の世代の語．よく聞いた.
イジクラシ	うるさい．わずらわしい.	11#$ 人間関係	○	イジクラシヤーの形で使うことが多い．イジッカシーとも言う.
エチャケナ・エチャケニ	かわいらしい．無邪気であどけない.	11#$ 人間関係 13* 行動・感情	○	エチャケナーが通常である．連体形のエチャケナもあるが，エチャケヤナー，エチャケニ，の形は違和感がある．幼い，微笑ましいものについてのみ使うので，「エチャケな娘」という表現には違和感がある.

ボンボ	おんぶ．（幼児などを負うときに使うことば）	11# 人間関係	○	ボンボとも言うし，オンブとも言う．
ヒネクラシ	（年齢よりも）老けて見える．（子どもが）大人びている．	11# 人間関係	△	使っていた．「あの人はヒネクラシー人や」．ヒネババ（相当に歳をとった老婆．バーバよりも歳が上．）という語をよその人（ダム建設のために「堂」から灯台笹に引っ越して来た人々，20 戸くらい）から聞いたことがある．
キザエル	ふざける．（調子に乗って）騒ぐ．	11# 人間関係	×	
アイソムネ・アイソムナイ	心さびしい．無愛想な．	12* 社会・交通	○	返事や顔の表情についてだけでなく，状況（接待時にご馳走が少ないなど）についても言う．
オンボラート	気がねなくのんびりと．	12 社会・交通	○	「オンボラート寝まっし」などと使う．同じ意味で，エンゲラートという語もある．
ダンネ	それでいい．もういらない．	12 社会・交通	○	構わない，いらない，の意味．「心配かけてすみませんでした」と言われて「いやーダンネダンネ」と否定したりする．
チャベコキ	おしゃべり屋．口が軽くいらぬことを言ったり，告げ口をしたりする者．	12* 社会・交通	○	悪い意味の言葉である．「あれチャベコキやからあんまり本音のことを言うたらあかんぞ」などと言う．

ハグチ（例文全て動詞「くう」と共起）	はぐらかすこと．（予想したことと違ったことをする）	12 社会・交通	○	「ハグチ食わす」はスカタン食わすこと．足払いなどでひっくり返すこと．
ミテクレ	みかけ．体裁．	12 社会・交通	○	
メンデ	見苦しい．恥ずかしい．	12*$ 社会・交通（5* 衣）	○	「メンデやっちゃー」「メンデヤー」「友達きたやろ．メンデさけ，ちゃんとしとろ」などという．いい表現である．
ナガイコッテ・ナゲコッテ	長いことで．久しぶりで．（あいさつことば）	12 社会・交通	△	昔使っていた．
ヨッライ	集落の集会．寄り合い．	12 社会・交通	△	使ったし聞いた．
ヨモクロワルイ・ヨモクロガワルイ	勝手が悪い．（思わぬことになって居心地が悪いこと）	12 社会・交通	△	よく使ったし聞いた．ヨモクラワルイともいう．
オウボウ	付き合いごと．（親類や近所との贈答や義理でする行為．）	12 社会・交通	▲	先代の言葉．親が使っていた．「オーボーがひどうて（付き合いで経費がかかる）」．在所にずっと住んでいる人は使っているかも．
ゴモッテニ	ありがとう．（もらいものなどをして恐縮したときのことば）	12# 社会・交通	▲	自分は使わないが在所の人々がよく使っていた．お寺参りでお坊さんの説教を聞いたりした時に「ああ，ゴモッテニ，ゴモッテニ」などと言う．
ワヤク	冗談．ざれごと．（ふざけてものを言うこと）	12#$ 社会・交通	▲	あまり使わない．ワヤッキャという形ならいうかも．

グヮチコキ・グヮァチコキ	大きなことを言って自慢すること．また，そのような人．	12# 社会・交通	×	ウソコキは言う．
アーハヤ・アーハィヤ	何ともはや．ああ，しまった．（失敗した時などに出ることば）	13 行動・感情	○	アーハイヤの形で使う．老人語ではなく小学生くらいの子供でも使う．
アクショモン	あきっぽい人．いいかげんで物事を投げ出す人．	13 行動・感情	○	子供を叱るときなどに「このアクショモナー」という．
アラムサヤ	たいへんだ．面倒なことになったな．（困った時に出ることば）	13 行動・感情	○	心配した時の掛け声みたいなもの．
ウタテヤ（例文はウタテヤナ形のみ，解説欄にウタテナの形あり）	よわったな．困ったなあ．（いやな場面に出会った時出ることば）	13 行動・感情	○	ウタテヤーを使うが，ウタテヤナの形もある．「ウタテナこと」のような連体形は違和感あり．
ケナルイ	うらやましい．	13*$ 行動・感情	○	標準語の「羨ましい」では表せないような，欲しくてたまらない，自分もそうなりたい，という欲求を表す．子供の時に他の子が美味しそうなお菓子を食べていると自分も欲しくなって，バーバ（祖母）にすがって「ケナルーイ」と叫んだりする．
コウバクナ	（子どもなどが）大人びて利口でませている．	13 行動・感情 10$ 教育	○	賢い，知的な，という意味．コーバクモンという名詞もある．

ダチャカン	だめだ．役に立たない．埒があかない．	13* 行動・感情 14*$ 時間・空間・数量 17* 勤怠・難易・経済	○	よく使った，今でも使う．
ニンガシ・ニンガシイ	にぎやか．口数が多くてさわがしい．	13* 行動・感情	○	「ニンガシ一人や」．「祭りに人がたくさん来てニンガシカッタ」．
リクツナ	物わかりがよい．気立てのよい．（考えが）すぐれている．	13* 行動・感情	○	石川県全体の言葉ではないかと思う．物にも人にも使う．北国新聞の４コマ漫画のセリフにも出てくる．「リクツナ子や」．
ショマダレ	いくじなし．甲斐性がなくてしまりのない人．	13 行動・感情 5* 衣 10$ 教育	△	昔使っていた．自分について「ショマダレな，歳をとって，もうこんなことできんようになったんかいな」と言ったり，喧嘩して負けて泣いて帰ってきた子供に向かって「ショマダレー，しっかりせえ」などという．適切な，良い表現であると思う．
ジョンナ	奇妙な．へんな．（人柄など）気がきく．	13* 行動・感情	△	子供の頃よく使っていた．青年期以降使っていない．しかし良い表現である．『村ことば』にあるように，意味範囲は広い．軽い意味と良い意味がある．
セイモム	気が揉めて腹を立てる．	13*$ 行動・感情	△	昔は当たり前に使っていた．「ちょっと言うたら，あいつ

				はセーモンデ殴ってきた」のように使う．セーモムという終止形はピンとこない．
ドクショナ・ドクショモン	情けない．無情な．意地が悪い．	13* 行動・感情 14* 時間・空間・数量	△	よく使っていた．「今日はドクショナ日やった」．「ドクショナ子」のように，人について使うことはあまりなかった．
ワラビシ	子どもじみた．大人気ない．心がせまい．	13 行動・感情	△	使ったし，使われたこともあった．「年甲斐もなくワラビシー」．
エンバナ	あいにく．折あしく．	13 行動・感情	▲	よく聞くが自分は使わない．よその年寄りが使っていた．
オゾクラシ	おそろしい．むごい．気持ちが悪い．	13# 行動・感情	▲	女性語ではないかと思う．母親とかバーバから聞いたが父親は使わず，自分も使わない．オゾクラシヤーの形を聞く．
コッパイ	こりごり．（めちゃくちゃで始末の付かないようなひどい状態）	13 行動・感情	▲	じいさんばあさんが使っていた．難儀なという意味．「まー子供がようけおってコッパイや」など．
テンポナ	とんでもない．途方もない．	13* 行動・感情 14* 時間・空間・数量 12$ 社会・交通	▲	聞くが自分は使わない．地元にほぼずっと住み続けていた弟がよく使っていた．地元の高年層の言葉である．「テンポなこと言うな」．「あいつの話はテンポなもんや」．
ヤチヤチ	あわてて．いそいで．（時間を掛けず，手を抜いた様子）	13 行動・感情	▲	聞いたことはある．世代によると言うよりも，人によって使うものだと思う．いい表現だと思う．

ラクスケモン	のんきもの．世の中を気楽にすごす人．	13 行動・感情	▲	聞いたことはあるが使わない．
クッツリ	思ったとおりになり満足．順調．	13* 行動・感情	×	
シンブリ・シンブリマンブリ	始めから終わりまで辛抱づよく．しっかり．	13 行動・感情	×	
ダイバラ	たいへんだ．一大事だ．	13 行動・感情	×	バラヤ，バラヤッタは使っていた．「ズボンがずれ落ちてバラやった」など．ダイバラはバラの強調形である．『村ことば』解説中にあるバラモンという形はわかるが自分の言葉としては使わない．
ムクッショナ	無愛想な．無口な．	13 行動・感情	×	
アオダカス	おだてたりして騒がす．かき回す．	14 時間・空間・数量 12$ 社会・交通	○	かき回す，かき混ぜる、という意味．
イッペンコ（例文はイッペンコニの形のみ）	一度に．いっぺんに．	14 時間・空間・数量	○	「こんなもん覚えるのはイッペンコや」．イッペンコロリンとも言う．「すぐに」というような意味．
カラキシ・カラッキシ	まったく．まるきり．	14 時間・空間・数量	○	カラッキシの形を使う．
カンカラカン	たいへん固い．間違いない．	14 時間・空間・数量	○	紐を結ぶ時に「緩んだらあかんさけ，カンカラカンに結んどけよ」などという．
キシクル	（戸などが）きしる．（人間関係が）しっくりいかない．	14 時間・空間・数量	○	キシクッテ，キシクッタの形で使う．キシクルの形は文章的に思える．

チャッチャト	てきぱきと．さっさと．	14 時間・空間・数量	○	「（ゴルフでなかなかショットをしない人に向かって）チャッチャト置くまっし」と言ったりする．
デカト・デッカト・デカート	たくさん．	14*$ 時間・空間・数量	○	デカートの形を使う．「デカート入れて」．「今日，お参りにデカートの人やった」．「ビールをデカートツルツルイッパイに入れて」．
ヘグル	くりかえす．	14 時間・空間・数量	○	言って聞かせるために何度も言うこと．「くどくどとヘグッテばっかりおって」「ヘグルな，なんでもそんなに」などと言う（批判的なニュアンス）．
サカシナ	さかさま．（着物の裏返しや「反対に」という意味にも使う）	14 時間・空間・数量	△	昔使っていたが最近使わない．「傘サカシナでねーけ」．
ソコッタシ	そこらじゅう．あたりいちめん．	14 時間・空間・数量	△	昔使ったことがある．今は「そこらじゅう」を使う．
ヨダガリ	夕方，仕事を終えて家に帰ること．	14* 時間・空間・数量（6*$ 食）	△	ヨダガリはお月さんと一緒に帰る．『村ことば』解説中の，ヒラガリ（昼食のため家に帰ること）も使った．しかしアサオリ，ヒルオリは知らない．
ツマツマト	少しずつ．こつこつと．	14 時間・空間・数量	▲	聞いたことはある．「ツマツマト食べまっし．ツマツマトやるまっし．」など．あまり使った覚えはない．
テンデン（例文は３つとも	それぞれ．おのおの．	14 時間・空間・数量	▲	聞けばわかる程度．

テンデンニの形)				
ホッコリ・ホッコーリ	じゅうぶんに．順調に．ほのかに暖かい．	14 時間・空間・数量	▲	年寄りが使っていたのを聞いたことはある．「ホッコリせんわい」．
ナンゾゲナ・ナンゾゲニ	なにげなく．おろそかに．	14 時間・空間・数量	×	
マンベン・マンベンニ・マンベンヨラ・マンベンヨーラ	均等にゆきわたること．	14 時間・空間・数量	×	マンベンニやマンベンナクは使う．マンベンヨーラは知らない．
ヤクチャンネ	むちゃくちゃな．とんでもない．	14* 時間・空間・数量	×	「葬式で忙しいてヤクチャナカッタ（大変だった）」というのはある．
ハカイク	はかどる．（ものごとが予定以上に早くできること）	15*$ 職業 17 勤怠・難易・経済	○	「仕事がハカイク」．ハカイッタも言う．
イィ	仕事の助け合い．結い．（農作業，屋根葺きなどでお互いに助け合うこと）	16* 農林漁業	○	集落（灯台笹）の中での助け合い．親戚よりは薄い関係．
ヤスンギョ	田植えを終えた後の集落いっせいの休み．	16*$ 農林漁業	×	
アセクラシ	せわしない．気ぜわしい．	17* 勤怠・難易・経済 13* 行動・感情	○	アセクラシ，アセクラシヤ（アセクラッシャー）の形．文句を言う時などに使う．

アッタラモン・アッタラモンナ	もったいない．（捨てたり手放したりするのが）惜しい．	17*$ 勤怠・難易・経済 13$ 行動・感情	○	アッタラモンナ，アッタラモンヤの形で使う．
アテゲナ・アテギナ・アテゲ	いいかげんな．ずさんではっきりしない．	17 勤怠・難易・経済	○	アテゲナ，アテギナの形は使う（ギとゲの中間的な音である）が，アテゲを名詞で使うことはない．
オオドナ	ぜいたくな．横着な．	17# 勤怠・難易・経済	○	「オードナことすんな」．「贅沢な」という意味であって，「横着」の意味はピンとこない．反対語としてズメナがある．「ズメニせい（節約しろ）」．
フンジョナ・フンジョスル	不自由．	17*$ 勤怠・難易・経済	○	不自由というよりは，不便なという意味である．
ウララ	おれたち．私たち．（ウラ＝おれ，わたし）	18# 助詞助動詞その他 11* 人間関係	○	『村ことば』解説にある関連語のワッラ（お前たち）も使う．子供達に「ワッラ何しとんや，遊んどるがか」と言ったりする．

表の解説：

見出し語の順番について．分野の数字の若い順番に並べ，同じ分野の中では○△▲×の記号順に並べ，同じ分野・同じ記号のものは見出し語のアイウエオ順に並べている．

「語形」と「意味」は，表の最初に（『村ことば』掲載）とした通り，仮名や漢字の表記も含めて『村ことば』の記述をできるだけそのまま採用した．ただし「語形」は見出しの形と異なる形が例文に示されていればそれも「語形」として併記した．

「分野」の数字と名前の組み合わせは「全国方言基礎語彙調査項目」と同一である．

「分野」の数字の直後の記号は本稿で独自につけたものである．＊は，加藤（1999）に掲載されていた語形と同形もしくはほぼ同形とみられるもの（ガチャブリとグヮチャブリ，

ドンドガミとドンドカミなど）．＄は，佐藤（1983）に掲載されていた語形と同形もしくはほぼ同形とみられるもの．＃は，共通語形が「全国方言基礎語彙調査項目」でその分野に分類されていたものである．＃，＄，＊の間で分野が異なる場合は，＃の「全国方言基礎語彙調査項目」を優先するか，もしくは本調査話者のコメントに合うと思われる分野を選んだ．

「話者の使用」の記号について．〇は「使う」，△は「使っていた」，▲は「聞くが使わない」，×は「聞いたことがない」を意味する．

「話者の使用形態，意味，例文」は話者の言葉をなるべく生かすようにした．特に「」で示した例文は，話者の発言そのままを採用している．

[付記]

話者の樫田磯次氏には今回も快くご協力いただきました。深く感謝します。

＊＊

【編集後記】

『現象と秩序』第 8 号をお届けします．巻頭の特集「社会学を基盤にした（ソーシャルワーク系）新専門職の可能性」は，第 4 号掲載の小特集「専門職教育における社会学」の発展企画であり，いずれも，社会学とは何か，という探究の成果であるといえるでしょう．江原論文は，社会変革に志向したソーシャルワークと社会学が協働できる可能性を示唆してくれています．巽論文はその路線が「大学職員の研究者化」のなかで可能となる道筋を示し，木下論文は，社会学系の各学会が若手研究者問題を真剣に考えることが，社会学変革と社会変革の同時達成に道を開くのだ，と主張しているとも読めます．実践的には，いずれもそのとおり，という気がしますが，もうひとレベル，メタの視点に立とうとするときには，内田隆三の見立てが参考になるでしょう．内田は，「社会学は何かある対象について研究しながら，同時にそういう研究をする自分自身の正当性を問題にし，自己言及をはじめる・・(中略)・・・それは社会学が自分で自分を根拠づけようとして，結局，自分を宙吊りにしていく過程」である（『社会学を学ぶ』25 頁）と 2005 年に書きました．根拠付けようとすることが，どうじに，根拠付けの困難を確認する作業にもなる，という見立てを述べてくれていたわけです．それが分かっていて，なおも，社会学の根拠付けを志向しつづけるべきか，が 21 世紀の今，問われているようにも思われます．社会に対して実践的であろうとすればするほど，実践的に関わることが困難であるような存在としての社会というものが見えてきてしまうのが，社会学と社会の関係なのかもしれません．なるべく冷静に，複眼的に考えていきたいと思っています．

付記：本号の特集の関連企画として，第 16 回日本福祉社会学会大会(2018 年 6 月 16 日～17 日,中京大学）内で，テーマセッション「福祉専門職と社会学」が開催されます．また，松浦智恵美氏の雑誌評論文に関連して，「『新社会学研究』合評会 in 東京」が 6 月 9 日に武蔵大学構内（1 号館 B 1 階 1001 教室＝予定＝）で開催されます．　(Y.K.)

＊＊

『現象と秩序』編集委員会（2017 年度）
編集委員：樫田美雄(神戸市看護大学)，　中塚朋子（就実大学），　堀田裕子（愛知学泉大学）
編集幹事：平田菜津子（神戸市外国語大学）
編集協力・印刷協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第 8 号　　2018 年　3 月 31 日発行

発行所　〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4
神戸市看護大学　樫田研究室内　現象と秩序企画編集室
電話・FAX）078-794-8074（樫田研），e-mail:　kashida.yoshio@nifty.ne.jp
PRINT ISSN　：2188-9848
ONLINE ISSN　：2188-9856
http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html